

中学数学自習システムであるAGメソッドの特徴の1つに、教材のダイナミックということがあります。ダイナミックとは、「動的」という意味ですが、教材が「動的」とは、どういう意味でしょうか。

数専ゼミの教材の目的のひとつに、問題解法時における生徒の思考プロセスを制御する、ということがあります。

これはどのような参考書にも書いてないし、また学校や塾でも教えていないことで、問題を解くときに、問題のどの部分をどのように読み取り、また、どのような定理や規則をどのように適用していけばその問題が解けるのかを、スモールステップでガイドしながら問題を解かせるというシステムです。

この問題解法の思考プロセスは、あくまでその時点における実践の到達点であり、それは絶対的に有効であるという意味ではありません。だから、そのつど実践での経験を総括し、教材へ反映していかなければならないのです。

AGメソッドは、だから、生徒の学習における自己評価、および生徒の生の声を教材へ反映することをシステムとして内包しています。「学習記録」システムのことです。

これによって、教材は日々更新され続け、常に最も有効な解法プロセスを生徒が習得できるようになっています。これが、教材が「動的である」という意味です。

だから、このようなシステムにとって、実践の範囲の拡張は、そのまま教材の質を高めます。より多くの経験を結集することで、教材の質がより高度になります。

このような教材は今まででは皆無です。インターネット上にある教材だからこそできる超現代的なシステムといえます。

インターネット教材が、ソフト技術におぼれ、教育からはなれつつある中、AGメソッドは、教育の原点からインターネットを利用する新しい試みともいえます。

問題解答(択一式解答)の即時表示や正答率の%表示などは、ゲーム性だけを追求したものであり、教育的意味はまったくありません。だから、生徒はすぐあきてしまい、投げ出してしまうのです。

教育にとっての本質は、そうではなく、問題解法の思考プロセスをどう生徒に形成するか、ということであり、この分野で、コンピュータがどう利用できるかを研究することであるはずで

AGメソッドはその意味で、ものすごくアナログチックなデジタル教材であるといえます。

しかし、これが現在のコンピュータ技術の、教育における利用形態の限界であると思われます。

より多くの経験の結集が今後の課題でもあります。

数専ゼミ代表 石山 彰